

「資料」

## 長崎県での離島教育の資質を備えた教員養成のための視点の分析

倉田 伸\*・西田 治\*

長崎大学教育学部\*

離島教育の資質を備えた教員の育成の手がかりとなる視点の提示が本研究の目的である。そのために、離島部の小学校で勤務する現職教員と離島・へき地実習を体験した大学4年生を対象にアンケート調査を行い分析した。その結果、離島教育の資質を備えた教員養成のための視点をカテゴリ分析して提示するとともに、離島実習だけでは得にくい視点が存在することを示した。

キーワード： 離島教育，教師教育，教育実習，高等教育

### 1. はじめに

#### 1.1. 背景

長崎県は有人島数51という日本最多の離島数を保有しており、過疎化・少子化による児童・生徒の減少で小規模校の割合が増加している。そのような中、学校や地域社会での学びの質を担保し、離島における教育水準の維持・向上が、長崎県教育の重点課題の一つとして挙げられている（長崎県 2013）。

複式学級を保有する小規模校では、教員数が少なく校務分掌が多岐にわたるため教職員の多忙感が強く、また、研修のための出張などが簡単でないなど、学校運営上の困難も多い（原田ら 2006）。よって、へき地校に赴任する可能性がある教員は、これまでの教育活動や指導方法が通じないことに大きな不安と抵抗感を感じるため、へき地で教職を継続的に続けることを前向きにとらえにくい。そのため、前向きな意識でへき地に赴任できる教師の要請は、教師になる前のある程度のへき地の特性や指導方法を学び、それを活かす心構えをもって赴任することが必要である。（川前 2015）

これらより、長崎大学教育学部は、離島の資質を備えた教師を養成していく責務がある。

#### 1.2. 長崎大学教育学部の取り組み

長崎大学教育学部附属小学校では、平成16年から特別に複式学級が新設され、教育実習指導や全国に点在する山間・離島の複式教育の指針となるため、効果的な指導の在り方について研究を重ね、実践を提案している。

また、長崎大学教育学部では、平成19年度より蓄積型体験学習という職場体験を意図した実習を実施している。その中で、離島やへき地の学校教育の現状や地域に果たす学校の役割を理解することを目的とした離島・へき地実習がある。ここでは、実習生が学校教育活動や地域活動にかかわりながら、少人数・複式授業・学校経営・地域交流などの現状を把握し、

学校・子ども・地域に対する理解を深めることにより、離島やへき地における教育的ニーズや課題に対して、柔軟に対応できることを目指している。

さらに、長崎大学教育学部では、平成28年度より推薦入試に離島教育推薦枠を設けた。ここでは、離島における教育に強い関心を持ち、卒業後は長崎県内の離島地区小学校において教職に就くことを強く希望する者を対象としている。

これらより、長崎大学教育学部では離島に関して様々な取り組みがある。しかし、離島教育の資質を備えた教員養成のために、現在何が必要なかは明らかになっていない。長崎県の離島における教育水準の維持・向上のためには、離島教育の資質を備えるために必要な情報を検討し、長崎大学の学生が在学中にその視点を持って学習していく必要がある。

### 1.3. 目的

本研究の目的は、離島教育の資質を備えた教員の育成の手がかりとなる情報として、離島教育に関する視点を提示し、その特性を検討することである。そのために、離島教育に対する調査を行い、長崎大学教育学部の離島教育に関する取り組みに必要な視点を検討する。

## 2. 調査

本研究における調査方法は、離島部の小学校で勤務する現職教員（以下、離島勤務教員）5名と、離島・へき地実習を体験した大学4年生（以下、離島実習経験学生）53名に対して、離島勤務や離島実習を経て感じた離島教育の長所と課題に関するアンケート調査を行った。アンケート調査は文字数制限を設けない自由記述形式であり、必要に応じてインタビューを追加して実施した。さらに、第一著者を含めた7名が共同で、KJ法を活用して、それぞれのコメントをカテゴリに分類した。

## 3. 結果・考察

### 3.1. 離島勤務教員と離島実習経験学生の離島教育の長所に関する視点

離島勤務教員の離島教育の長所に関する視点の調査結果を表1、離島実習経験学生の離島教育の長所に関する調査の結果を図1に示す。カテゴリに分類する際、どのカテゴリにも属さない単一の視点はその他の視点として除外したが、離島勤務教員の離島教育の長所に関する視点の調査結果においては、離島勤務教員が5名であるため、単一の視点も含めてカテゴリ化した結果を分析した。その結果、離島教育の良さに関する印象において、離島勤務教員の視点を、「学校に対する協力体制」「教師のみとり」「人間関係の濃さ」「自然の存在」「学校に対する敬意」に分類できた。また、離島実習経験学生の視点を、「学校に対する協力体制」「教師のみとり」「子ども同士のつながり」「地域内での密接なつながり」「豊かな心の育成」「小中学校の強い連携」「発表できる機会の多さ」「自然の存在」「個に応じた授業の展開」に分類できた。離島勤務教員と離島実習経験学生に対する調査対象人数が大きく異なるため、単純な比較はできないが、「学校に対する協力体制」「教師のみとり」「自然の存在」

での共通の視点があることがわかった。さらに、離島勤務教員の視点にある「人間関係の濃さ」と、離島実習経験学生の視点にある「子ども同士のつながり」「地域内での密接なつながり」「小中学校の強い連携」が類似視点であるなど、離島実習で学びが、離島勤務教員の離島教育の良さにおける視点を得やすいことがわかった。ただし、離島勤務教員の「学校に対する敬意」に関する視点は、離島実習経験学生からは見られなかった。このことは、離島教員になり、かつ様々な学校を経験しないと実感しづらい視点であると考えられるため、従来からの長崎大学教育学部の離島・へき地実習を経験した学生にとっても実感しづらい視点であると言える。

### 3.2. 離島勤務教員と離島実習経験学生の離島教育の課題に関する視点

離島勤務教員の離島教育の課題に関する視点の調査結果を表2、離島実習経験学生の離島教育の課題に関する視点の調査結果を図2に示す。離島勤務教員と離島実習経験学生の離島教育の課題に関する視点を、3.1.での同様の方法で分析した。その結果、離島教育の課題に関する印象において、離島勤務教員の視点を、「知人以外との交流体験の不足」「価値観、意見の固定化」「学習意欲の停滞」「実物による経験の乏しさ」「新しい環境への適応力の低さ」「学力に対する軽視」「厳しい家庭環境の割合の高さ」「特別支援対象者の割合の高さ」

「保護者との馴れ合いによる

表1 離島勤務教員の離島教育の長所に関する視点の調査結果

離島教育の良さに関する印象
学校に対する協力体制
教師のみとり
人間関係の濃さ
自然の存在

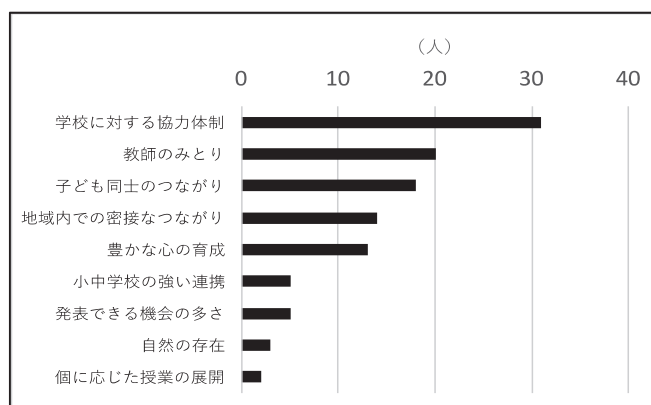


図1 離島実習経験学生の離島教育の長所に関する意識調査

表2 離島勤務教員の離島教育の課題に関する視点の調査結果

離島教育の課題に関する印象
知人以外との交流体験の不足
価値観、意見の固定化
学習意欲の停滞
実物による経験の乏しさ
新しい環境への適応力の低さ
学力に対する軽視
厳しい家庭環境の割合の高さ
特別支援対象者の割合の高さ
保護者との馴れ合いによる弊害

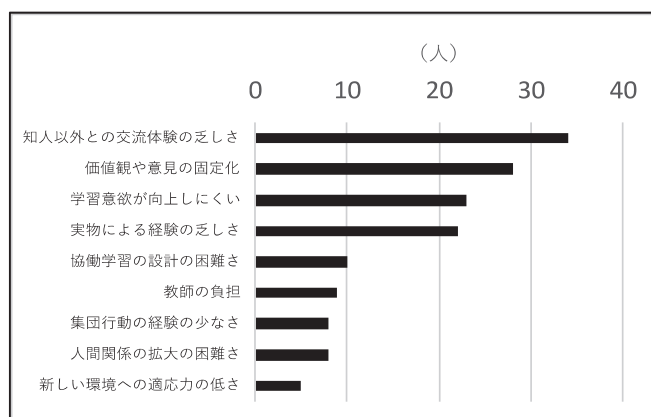


図2 離島実習経験学生の離島教育の課題に関する意識調査

弊害」「プライバシーが保ちづらい」に分類できた。また、離島実習経験学生の視点を、「知人以外との交流体験の乏しさ」「価値観や意見の固定化」「学習意欲が向上しにくい」「実物による経験の乏しさ」「協働学習の設計の困難さ」「教師の負担」「集団行動の経験の少なさ」「人間関係の拡大の困難さ」「新しい環境への適応力の低さ」に分類できた。3.1.での分析と同様、離島勤務教員と離島実習経験学生に対して単純な比較はできないが、「知人以外との交流体験の不足」「価値観、意見の固定化」「学習意欲の停滞」「実物による経験の乏しさ」「新しい環境への適応力の低さ」での共通の視点があることがわかった。ただし、「学力に対する軽視」「厳しい家庭環境の割合の高さ」「特別支援対象者の割合の高さ」「保護者との馴れ合いによる弊害」「プライバシーが保ちづらい」に関する視点は、離島実習経験学生からは見られなかった。これらのことは、学校生活外での教員生活を継続的に経験しないと、なかなか実感できないと考えられるため、従来からの長崎大学教育学部の離島・へき地実習では理解しづらい視点であると言える。ただし、共通点の1つである「新しい環境への適応力の低さ」は、本来であれば離島教員生活を継続的に経験していないと実感できない視点であるが、離島実習経験学生数名からの視点が見られた。これは、離島実習経験学生が、離島実習中に離島勤務教員と会話をする際、情報を得たのではないかと推測される。

#### 4. まとめと今後の課題

本研究では、離島教育の資質を備えた教員の育成の手がかりとなる視点を提示するため、離島勤務教員と離島実習経験学生の視点を比較することで検討した結果を示した。また、離島実習を行うことで離島勤務教員の視点をある程度得ることが示唆されたが、ある程度の教員経験年数を踏まえないと得られない視点を得るのは困難であることがわかった。今後は、ある程度の教員経験年数を踏まえないと得られない視点を大学生の時点から得るために、離島勤務教員らとのディスカッションを教育活動に取り入れるなど、様々な対策を講じる必要があるため、引き続き検討を続けていきたい。

#### 謝 辞

本研究に関わった方々に厚く御礼申し上げます。なお、本研究は、「学部長裁量経費による平成28年度・研究企画推進委員会プロジェクト」の採択を受けて実施しました。

#### 参考文献

- 長崎県(2013), 第二期長崎県教育振興基本計画, [http://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/kanko-kyoiku-bunka/kyoikukikannado/overview/promotion\\_plan/131278.html](http://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/kanko-kyoiku-bunka/kyoikukikannado/overview/promotion_plan/131278.html)
- 原田純治, 村田義幸, 進野智子, 赤崎真弓, 福田正弘, 平岡賢治, 小島道生(2006), 離島における教育の実情と課題. 新しい時代の要請に応える離島教育の革新, pp. 1-6.
- 川前あゆみ(2015), 教員養成におけるへき地教育プログラムの研究, 学時出版